

2025年12月16日、省エネ施策の実行が一段落つきました

令和6年度の選定以降、当社で取り組んできた省エネ施策が一段落つきました。主なものを以下にご紹介します。

当社が取り組んだ主な省エネ施策	
印刷機ランプ更新 印刷物のインクを乾燥させるためのランプ(青枠部分)をメタルハライドランプから LED-UV ランプへ更新しました(電力使用量約80%削減見込)。 	空調機の夜間・休日稼働時間を短縮 在庫品の品質維持のため夜間、休日に空調機を自動運転させている部屋について、検証を重ねつつ空調稼働時間を短縮しました(右写真はイメージ画像)。 
事務所内にサーキュレーターを設置 空調機の効きムラをなくすため(特に冬場は足元の寒さを解消するため)、事務所内に3台のサーキュレーターを設置しました。 冷たい空気は下におりる性質があることから、事務所内にサーキュレーターを設置することで、空気を効率よく循環し、空調の温度設定を見直しました。 	社用車をハイブリッド、PHEVへ入れ替え 社用車としてハイブリッド乗用車を1台、PHEV乗用車を1台購入しました。ガソリン燃料からクリーン電力への移行を進めます(右写真は給電中のPHEV乗用車)。 
従業員ユニフォームの変更	
空調機の出力低減を目的にユニフォームを変更しました。目標は「夏場の空調設定温度1°Cアップ、冬場は1°Cダウン」です。	
 夏服(変更前) → 夏服(変更後) ※風通しの良い素材です	 春秋用のトレーナー (新規採用) 冬服(変更前) → 冬服(変更後) ※冬用アウターは防寒仕様です
GX推進体制構築と意識向上への取り組み	
「脱炭素化チーム」の組成 GXに取り組むにあたっては、異なる部署からメンバーを募り、「脱炭素化チーム」を結成しました。当機構及びリコージャパン(株)から構成される支援チームとの定期面談に加え、当社内で開催する“節電会議”でも中核メンバーとして活動しています。 	社内全体への経過報告 GX推進にあたっては、取り組み内容、途中経過(取り組みの状況)、その時点での効果(数値検証)について、経営会議や全体朝礼などで全職員に伝えています。 結果、職員全員の意識が変わり、協力する姿勢が生まれたと感じています。空調機の出力低下、また稼働時間の短縮につながるなど、大きな成果を得ています。

宮崎県「脱炭素推進モデル企業」として取り組んだメリットについて、「脱炭素化チーム」の皆様に伺いました。

- 前年11月の省エネ診断(リコージャパン㈱)による工場全体のウォータースルーチェンジの様子を皆が見たことは、省エネに対する社内意識の統一・向上につながったと思います。
- また省エネ効果の目標設定は難しく感じましたが、省エネ診断報告書には『〇個の施策を実施することで、〇kWh の削減が見込める』との記載があったので、当社では『提案された施策の〇割を実施し、効果見込の〇%達成を目指そう』という形で目標設定を行いました。

また、県内中小企業の皆さんに伝えたいことを挙げてもらいました。

- GXに取り組む際は、その方針や進捗状況を会社全体に伝えることで、皆の協力する姿勢が生まれると感じました(省エネに関する数値報告だけでも意味があります)。
- まずは目標設定が大事です。目標があれば、現在実施中の施策が効果的なのか判断が付きやすいです。当社では「本年度の取り組みにより、省エネ施策の見通しがたった。適宜効果を検証しつつ、現方針を継続していきたい」と考えるに至りました。

取り組みの効果もあり、令和7年12月時点で、前期比数%の電力使用量削減効果が出ています。次年度も、適宜検証を重ねつつ、現在の方針を継続していく予定です。